

平成9年、学法化とともに、この業界へやって来ました。財務書類を見て、「なんて恵まれているのだろう。」と驚き、また、現場を見て、「なんて、効率が悪いのだろう。」と。恵まれていつつも、それ相応な水準での視点での財務状況が良くない。限界が見えている。そう感じたものです。

子育て環境政策。幼保一体化法案。大きく変貌しようとしている今…

国の制度の波に乗ること。不利な立場を回避すること。加えて、それを良き環境向上に利用し、合理化・効率化を推し進められる構造にすること。そして、恒久的な経営改善。それを行うことのできる体制基盤の準備と施設改修が必要であると。

全ての機能向上を伴う、合理化・効率化をし、環境向上・内容向上・財務状況向上を目指し、裕福な学園を目指す。金持ち学園になる。いざという時の独り勝ちを目指す。

環境を守り、右肩上がりの構造へと変える。経営努力あってこそ、子ども達を守り、家庭を守り、どこよりも優れた学園作りができるんです。また、雇用を守り、待遇の向上を実現できる。誰もが羨む職場へと進み、能力あり野望のある人材を集めることにつながるんです。

幼稚園経営も、一つの会社法人と同じく事業であり、全ての責務ある経営者による努力だと思っています。

生ぬるい学法経営に目を覚ませ。

国の財政は右肩下がり。努力を惜しまぬ同業とは手を取り合い、努力せぬ学園には消えてもらうしかありません。

いや、消えざるを得ないもの、消えるべきものかもしれません。経営努力せずして衰退は当然のことであると思います。

全ての要素を集約した結果、「幼稚園を守るために保育所を併設」を、決めました。



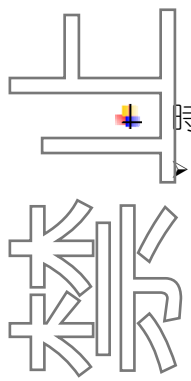
国策への対応、制度への対応という重要性

- ▶ 幼保一体化への誘導。財政的インセンティブを付加への方向と私学助成は減額への可能性。
- ▶ 認可保育所の認可は多大な運営費を確保できうる切符。保育所整備も次元的立法。加えて復興本格化による建設費の高騰、消費税増税…。
 - ◇ 多大なるリスクを考慮し、そのチャンスを逃さない。
- ▶ さらに、国策も財政も確固たるものではない。→どのような方針になっても、多方面からの制度・財政的なインセンティブを受けられる体制を築くことが肝要です。
 - ◇ 国は進めたい方向へ誘導しますから。「このままで…」。それは、先々の制度の変貌に対し無責任なる怠惰であると思うと同時に、制度や付加価値を利用してしまおうという発想。
 - 「このままでやっていけるし。」その思考回路こそが、誤りだと感じているのです。
- ▶ ただし、根本の理念を変えてまでの対応は、意に反するもの。教育が見直されたとき、「建学の精神・教育・歴史」を、疎かにすることなく守り抜くことも必要です。
 - ◇ →幼・保、両面のバックアップに対応しつつも、それぞれの理念を守り、守るところが高められる構造を構築し、確固たる分業を維持することが先々重要であると考えます。

幼保一体化は大反対。

- ▶ 尻に火が着けば、「どこも、幼保混同施設」となることを感じます。本当にそれでいいのか？
 - 幼と保の保護者の価値観や姿勢の違いが生む摩擦。→「教育棟」、「保育棟」、別棟発想。
 - ▶ 「長時間保育環境が充実した幼稚園」と「教育機能を取り入れた保育所」の併設。
 - ▶ 教育施設での中途半端な保育事業（預かり保育）は家庭の代わりである施設である保育部門へ。
 - ▶ 保育部に対しても望まれている教育。幼稚園の歴史とノウハウにより導入がスムーズ。
 - ▶ 様々な年齢層への子育て支援事業も行いやすくなります。
 - 一体化しつつも、互いの狙いを明確に遵守しつつ、効率的な連携を可能とする施設づくりを目指す。
 - ▶ 落ち着いた長時間保育の中で子どもの一日の精神面を考えた上、「短時間・緊張・集中」というメリハリを与える環境こそが、教育の質を上げる大きな要素となる。
 - ▶ 一体化されつつあるのであれば、幼としての教育絶対主義と環境を謳うことで、他施設との差別化を狙う。
 - ▶ 独自の幼保連携構造。制度、助成体系、現場を勘案し、いずれ幼と保を分離することも可能。





時間が経ち、総合こども園整備が広く普及したとして、その時点での優位な格差をもたらすものはいかなるものであろうか？

そして、財政的援助が軽薄になった場合。

- ◇ 「合理化・効率化による持続性のある収益構造改革」何よりすぐれた武器。
- ◇ (例) 他の保育所では、パートを雇用しなければならない隙間を、幼稚園側職員のシフトで賄うことができる。→相互の研修制度。人件費の削減。
- ◇ (例) 災害備蓄品補助は、私学にはあり、保育所にはない。様々な補助体系が別個に存在する幼保。都合の良いほうでの施設整備が行える。
- ◇ (例) 幼稚園に無償で貸していた土地。保育所では借地補助が公金から出ます。ソーラー発電は上限¥1,200万で100%など。→その他も多々。
- ◇ 特別支援の人件費補助。幼稚園→¥700,000/年。保育園→¥7,000,000。
 - 子どもの環境を考えても、人的・物的環境に適した保育所で引き受けられる環境づくりが、子どものためにもなり、法人にとっても、多大な経費削減が行える。
- ◇ 互いに異なる施設で持ちうるノウハウを、互いの施設で相互に検討し、幼保ともに質の向上へ向け役立てる。
- ◇ 様々な効率化・合理化は、教職員の働く場としての意識の向上、また、環境整備にもつながる。

権利が取れるうちに、制度対応と効率化と恩恵に対する布陣を。
… 幼稚園規模を縮小しても、「隣接」に認可保育所を。



- 共用がもたらす効果は絶大と読む。
- 待機児問題に対し解消の目処が付き始めた段階で、財政が厳しくなるにつれて、認可を出さない危険性。
- ただし、根源にあるのが、幼児教育を通して感じる、さらなる低年齢児の家庭に対しての、教育・保育の必要性。
- ◇ その本筋に対しても、理想的な連携体制の構築が叶うものであると。
- ◇ 既存のやり方・仕組みにこだわらず、かつ、理念を逸脱せず、発想の枠を広げ…
 - 「教と、保、さらに、生活」を加えた、子どもと、それを取り巻く新たな施設を目指し…
 - 現場から、制度を作り上げていく。(管轄行政との連携)

事実的に、財政的な大きな後退とリスクの発生。
そして、国内最大級の総合施設への可能性の誕生という狭間にある今。

- 合理的・効率적であっても、効果の後退は許されない。

「矢を引き、矢を放つ」

- まさに、矢を引き始めた瞬間。(事実的な、財政的な大きな後退・リスクの発生、と、可能性の誕生)
 - ◇ 経営指数を100%とすると…。何もしないのは低減のリスク大の時代だと思います。
 - 120%の合理化を得るために、200%の出資を拒まない。
 - ◇ 共有にての合理化と効率化を目指せる構造。現状を最大限に生かし、長期的に明確な事業計画を図る。
- ◇ 制度設計の波に乗りつつ、長期的な視線をもって、臨機応変に動ける体制を構築する。



どこまで有効に生かせるか、伸ばせるかは、幹部職員率いる全教職員の能力と発想。

- 社員教育の徹底。構造改革の推進。ピラミッド構造の理解。

事業とは、形のない場所、不明な部分へ立ち入る勇氣。

- 読んだ末の最後は、勇氣と、総合的な視野にて勘案しつつの、「感」でしかないですよ。全ては経営者の判断です。

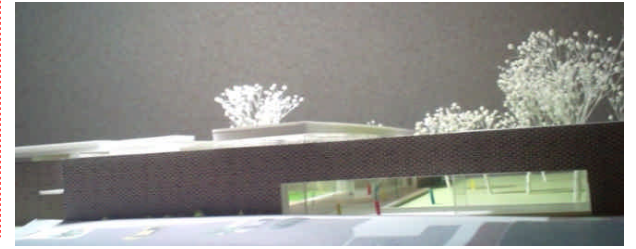




制度対応とともに、重要に捉えているのは…
《徹底した合理化・効率化》

「施設構造改革」・「収益構造改革」→継続的優位性

「ハード・ソフト、追従できないものの創作」
永続的なる施設への魅力、理念の構築とともに、効率化を生み出す
事の可能な経営構造こそが、相乗的な格差をもたらすものとする。



教育棟

(短時間利用児施設)
教育・情操・歴史

- ≫午前中は、幼児教育。
 - ≫午後は、幼児・保育園児・卒園児らの課外教室で徹底利用。
- 保育棟とは異なる空間演出

共有・案分

- 管理部の一元化 (事務機器・人員等の効率化) 2名の事務員対応は助かる等…
 - 施設設備の共有化 (効率化と環境向上)
 - 短時間利用児への給食提供 設備費の節約、単価の低下、サービスの向上、
 - 職員の異動・案分 幼稚園人件費の削減
 - 互いの施設への研修制度 (隙間配置の適宜利用) 保育園人件費の節約
- 相互に異なる補助を相互に有効利用。

その他、10揃えるのに5の出費。
恒久的に、合理化・効率化の可能性の枠が広がる。

→多大な借入の早期返済を目指す。

制度がどう変わろうと、適宜、合理的・理想的な形に向け対応が可能。



明確な役割分担 …より高い質の教育と保育の構築を目指す…

建学の心や理念を遵守し、そして、保育という、長時間保育に対する最大の環境をもたらすため、施設の役割分担を、より明確に維持し続ける。

心地よき空間。人がいるのであれば、誰もが心地良いと感じる環境整備。
→ 「教育・家庭・生活」環境の共存。

サービス・演出

- 「美しき」「驚きの」学園エントランス
- 正門横のショップ 展示広報。購買の統括。消費税・税制対策。園業務のスリム化。ビジュアル的演出。



- 厨房・ランチルームの機能の多目的化。カフェ、コンサート等行事利用、食育教室。≫雑木林にもテリバーリー等
- ドキドキわくわく。民間にも劣らず。

保育棟

(長時間利用児棟)
保育・家庭・生活・温かさ

- ≫日中の、空きスペース&人員は、幼保・地域の子育て支援にて利用。
- 教育棟とは異なる空間演出

